

平和な日々と観光の復活

沖縄国際大学

前村 昌健

2020 年はじめにわが国で新型コロナウイルス感染が確認されてから 2 年に至ろうとしています。この間、国内外で多大な影響が及び、社会や日常生活も大きく変わりました。年
老いた母から「世界感冒」が流行り、身近な人が少なからず亡くなったことを聞いた覚え
があります。昔の話だと思っ
ていましたが、現在の新型コロナウイルスが身の危険を感じるほど長期にわたり蔓延するとはよもや想像もつかないことでした。学会員の皆様も環境
変化に対応するために難儀な日々を過ごされていると拝察します。

さて、新型コロナウイルスの蔓延により地域の産業へ多大な影響が及んでいます。この
エッセーでは沖縄県の産業の中心である観光と関連させて述べてみたいと思います。研究
分野が地域の振興と財政の役割ということもあります。

2019 年 11 月、イタリアのサルディーナ島の観光振興について調査する機会がありまし
た。沖縄県と類似した島嶼地域の観光振興というテーマです。2 か月後には、新型コロナ
ウイルスが世界を震撼させるとは思いもよらず、滑り込みセーフの欧州調査でした。

サルディーナ州は、面積が九州ほどの大きな島で、人口は沖縄県（145 万人）よりやや
多い 165 万人、地中海性のしのぎやすい気候です。イタリア本土との歴史的・地理的・文
化的な差異が大きいことから自治州（特別自治州）という位置づけにあり、観光業、商業、
サービス業、IT 産業がサルデーニャの中心的な産業となっています。

美しい海、地中海の健康的な食文化、歴史遺産を活かした遺跡ツーリズム、体験ツーリ
ズム（自転車、トレッキング、馬など）、タラソテラピーなど、沖縄県の観光振興にも取
り入れられるヒントが多かったといえます。最も関心を抱いたのは「観光の質」を高める
ことへの地元の熱意でした。市や州が観光資源、環境を保全するために強い権限をもっ
ており、持続的な観光産業の発展を目指していました。沖縄県は、空港や港湾、道路などの
観光インフラを整備し、クルーズ船により多くの外国人観光客を受け入れるなど、ややも
すれば量的拡大を優先していますが、「観光の質」を向上させ、付加価値を上げることが
今後の大きな課題となっています。わが国でも「観光公害」が指摘される中、貴重な観光
資源を保全し持続的な発展に取り組むことが極めて重要であると思います。

沖縄県の観光産業の発展は目覚ましいものがありました。1972 年の本土復帰直後の約
60 万人から、新型コロナウイルス蔓延以前の 2018 年には外国人観光客の増加もあり 1000
万人を突破しました。しかしながら、コロナウイルスの蔓延により 2020 年の観光客数は約

260 万人と 70%の大幅に減少しました。航空会社、ホテル、レストラン・飲食店、お土産ショップ、遊興施設、レンタカー等の関連する産業への経済的な影響は大きいといえます。沖縄の観光は、今、将に苦境に直面しています。

観光産業は平和産業といわれています。国際的な政治の安定と協調、自国のみならず他国の経済的な成長・発展、また新型コロナウイルスのような感染症への対応も求められ、安心と安全を前提とした産業です。2022 年には新型コロナウイルスが終息し、また新たな感染症が発生しても対応できるしくみ作りを構築することにより、全国各地の観光が復活することを切に願っています。



イタリア政府観光協 HP より引用

<https://visitaly.jp/region/sardegna/>

○さるでいーナ島の写真紹介 (1 枚)